

編集後記

本当はこの編集後記を書く資格がないくらい、いわゆる編集作業は実質的に人間学研究所担当事務員の立石尚史氏にやってもらったのだけれど、編集長という名目で一つだけ仕事をした気分になったことがあったので、そのことをここに記しておきたい。それは査読に関してである。

本学の紀要はきちんと研究論文を掲載する研究誌としての体裁をとるようにとの学長からのお達しがあって、『人間学研究』も2006年度から何となく査読を始めたが、何しろ学際領域の論文が中心となる本誌の性格上、査読者の選定がなかなか難しい。ようやく決定してお願いしたところ、今度は査読者は未公開で選考すべきではないか、というご指摘を頂いた。何となくお互いに見知った中で、査読者選定も所員会議の中で行っていたのだが、なるほどと思った。これは今後考えないといけない。ちなみにこのご指摘は、他大学から来られた先生からお伺いした訳で、本当に自分のことは自分では分からない。異文化の視点は必要だと思いを新たにした次第である。

鶴飼所長が人間学研究について、学部紀要にはない特色を模索していると書かれていたが、この異文化の聞き合いこそが、人間学研究所の創造性の源ではないかと思う。ま、紀要なんかでポイント稼ぐなんてセコイことはせずに、自由に学問を「遊ぶ」場として、この紀要も位置づけていければ…というのが、今のところの筆者の思いである。

高石 浩一

編集委員

委員長：高石 浩一

編集委員：秋田 巖、鶴飼 正樹、佐藤 知久、
永澤 哲、馬場 雄司、門間 敬子

編集事務：立石 尚史

京都文教大学人間学研究所紀要 第十号

2010年3月29日 印刷

2010年3月31日 発行

編集・発行 京都文教大学人間学研究所
〒611-0041 宇治市檜島町千足80
☎0774-25-2891

印刷 (株) 栄文堂